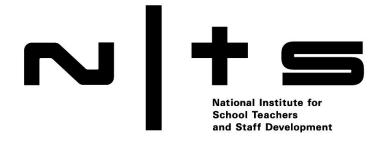
教職ブラッシュアップ編「不登校」

奈良女子大学 臨床心理相談センター長 伊藤 美奈子



独立行政法人教職員支援機構

不登校に対する指針の変遷1

1950年代終わりころ~1980年代まで

「学校恐怖症」から「登校拒否」に

不登校の増加(心の病気から教育問題へ)

中核は神経症的不登校

⇒「登校刺激はしてはならない」という言説

不登校に対する指針の変遷

「登校拒否」から「不登校」へ 1992年 "どの子にも起こり得る" "待つことの大切さ" 不登校の増加と多様化 \parallel 2003年"ただ待つのみではなく、正しいアセスメントに 基づく適切な働きかけや関わりを" \parallel 1 義務教育の段階における普通教育に相当する 2016年

教育の機会の確保等に関する法律(教育機会確保法)制定

教育機会確保法

2016年に公示

- ◇不登校というだけで「問題」とみなさない
- ◇「学校復帰」だけがゴールではない
- ◇社会的自立をめざして
- ◇多様な学びの機会の保障

多様化する現代社会における不登校

「不登校」の背景にある多様な「問題」 友達や教師との人間関係、学業の難しさ、 部活動の悩み、いじめ、発達的な生きづらさ、 精神病理(鬱や不安等)、 トランスジェンダー、ゲーム依存、 虐待、貧困、ヤングケアラー

不登校への支援1

◇多職種による多様な支援 教育的支援・心理的支援・医療的支援・ 福祉的支援・司法矯正的支援

- ◇学校内でも多職種によるチーム支援 教職員+SC+SSWなど
- ◇別室登校や放課後登校

不登校への支援2

◇学外の専門機関教育支援センター(適応指導教室)フリースクール教育センター心理相談室クリニック・病院児童相談所特例校、夜間中学校

不登校の子どものこころ1

- ◇不登校の子どもたちは、行きたい? 行きたくない? "行けるものなら・・・" "でも、行きたいと言ったら・・・"
- ◇どうして行けないの? 理由は"よくわからない""追い詰めないでほしい"

不登校の子どものこころ2

◇学校もしんどい。家は?
"家だと安心できる" しかし
"家でも心から安らいでいない"
保護者の一挙一動に対し「自分のせい?」と
不安になる

◇先生に対して エピソード "ロープの先" ⇒引っぱりすぎないで、でも離さないで

不登校の子どものこころ3

◇行きつ戻りつを繰り返しながら エピソード "まだ、まだら" = "不安を抱えながらの前進" も

保護者支援の大切さ

◇不安・苛立ち・悲しみという負の感情を、安心して 安心な人に吐き出せる場が必要。

◇保護者に原因があるというわけでは決してないが、 保護者が変わる(肩の力が抜ける・笑顔になる等) ことで、子どもも変わるということは多い。

今後に向けて1

- ◇大事にすべきは、アセスメント
 - ・子ども本人の訴えや"力・特性"
 - ・環境(家庭や学校など)へのアセスメント
 - ・困っているのは誰?・・・子ども?親?先生?(エンパワーする対象は?)

今後に向けて2

- ◇「支える人」を支えるしくみ 学級、学校、そして家庭を孤立化しない・ させない
- ◇多様な"社会的自立"があるので、その子に合った ゴール選択を!
- ◇不登校を"自分自身や将来のことを考えるため"の ターニングポイントと考えることも大切 (しかし、苦しい道行を寄り添ってくれる伴走 者が欲しい)